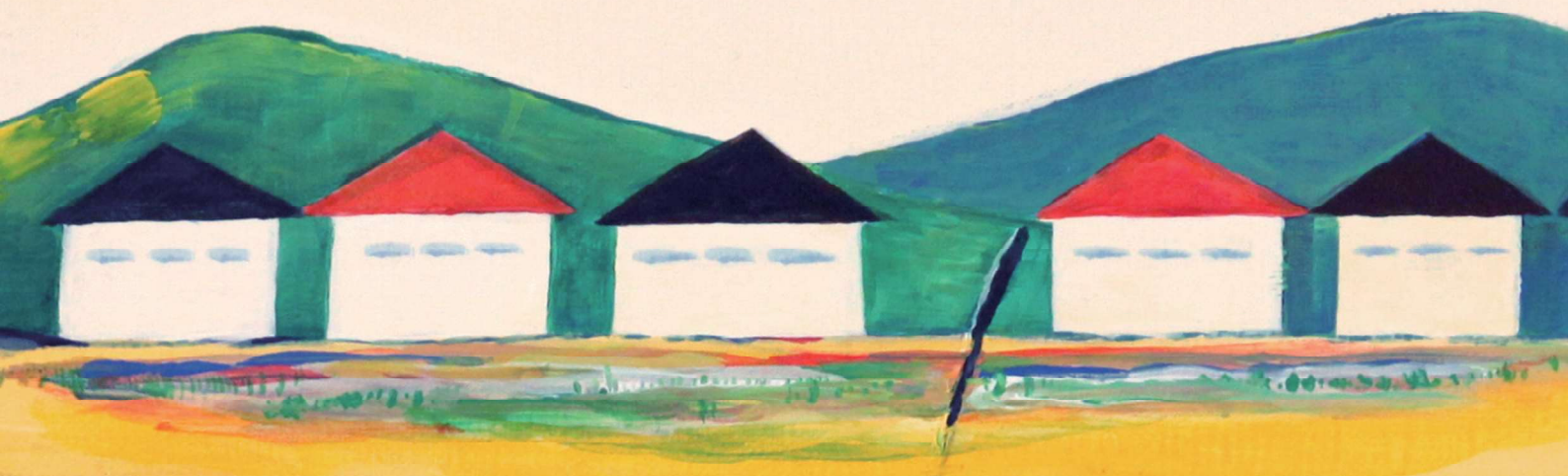


「被災と復興の証人とこれから」



入場無料（申し込み不要※どなたでもご参加できます）

2011年に起こった東日本大震災を受け、十年計画で立ち上げた「東日本・家族応援プロジェクト」は、9年目の活動を終え、最終年となる2020年度に向け、本プロジェクトをどのように着地させるか検討し始める時期になりました。院生報告と合わせて、被災後の陸前高田へ移り住み、復興への“あわいの日々”に生まれた言葉を紡いできたアーティストの瀬尾夏美氏に、東日本大震災後の貴重な経験を聞き、みなさんと一緒に今後について考えられたらと思います。

日時

2020年2月23日（日）

10:30～17:30（終了予定）

場所

立命館大学
大阪いばらきキャンパス

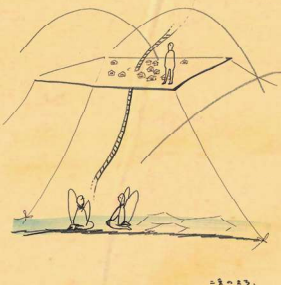
第1部：B棟2Fギャラリー R-AGORA

第2部/第3部/第4部：A棟1F AN110教室

第3部講演

「震災9年、二重の風景」

震災から9年が経ち、東北沿岸部の被災地では、復興工事を経て、あたらしいまちでの暮らしが始まりつつあります。真新しい風景を目の当たりにしながら、かつてのまちを思い、そして日々の営みを進めていく。震災後の陸前高田に暮らした瀬尾氏の視点から、まちや人々のここ9年間の変化を伝えていただきます。



講演者
瀬尾夏美氏
（アーティスト）

1988年、東京都足立区生まれ。宮城県仙台市在住。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了。2011年、東日本大震災のボランティア活動を契機に、映像作家の小森はるかとの共同制作を開始。2012年から3年間、岩手県陸前高田市で暮らしながら対話の場づくりや作品制作を行う。2015年、仙台市で土地との協働を通じた記録活動をする一般社団法人NOOKを立ち上げる。現在も陸前高田での作品制作を軸にしながら、“語れなさ”をテーマに各地を旅し物語を書いている。主な展覧会に「クリテリウム91（水戸美術館2015）」、「ヨコハマトリエンナーレ2017（横浜美術館・横浜赤レンガ倉庫）」など。2019年、「あわいゆくころ 陸前高田、震災後を生きる」（晶文社）を刊行。

プログラム

第1部 団士郎漫画トーク

「物語る力・回復する力」

10:30～11:30 [受付開始10:00]

※詳細につきましては裏面をご覧ください。



第2部 各地プロジェクト活動報告

「東日本・家族応援プロジェクト2019」

から見た被災地の現在

13:00～15:00（終了予定）[受付開始12:30]

司会進行：村本邦子（立命館大学大学院人間科学研究科教授、プロジェクトリーダー）

- 1) プロジェクト概要と企画趣旨
- 2) 各地プログラムチームによる報告
青森県むつ市/宮城県多賀城市/宮城県石巻市
岩手県宮古市/福島県福島市
（各15分、途中で10分程度休憩あり）

第3部 瀬尾夏美氏 講演

「震災9年、二重の風景」

15:15～16:15

第4部 パネルディスカッション

16:30～17:30

進行：鵜野祐介（立命館大学文学部教授）

パネリスト：立命館大学院生、瀬尾夏美氏



【主催】立命館大学大学院人間科学研究科
【お問合せ先】立命館大学総合心理学部事務室
TEL: 072-665-2190（月～金 9:00～17:30）
MAIL: sinri01@st.ritsumei.ac.jp

詳しい内容はこちらから→
立命館大学人間科学研究科震災プロジェクト 立命館大学大学院人間科学研究科HP
<http://www.ritsumei.ac.jp/gshs/info/detail/?id=27>

